

第20回柏崎市学区等審議会 概要報告

1 日 時 令和5年(2023年)5月25日(木)午後6時30分～午後8時5分

2 会 場 柏崎市役所1階 多目的室

3 出席者

- (1) 委員 16名 阿部会長、徳永副会長、五十嵐委員、池嶋委員、大谷委員、北村委員、小林(眞)委員、関矢委員、遠山委員、中村(豊)委員、中村(義)委員、宮坂委員、矢代委員、山田委員、吉田委員、井比委員
- (2) 事務局 4名 宮崎教育部長、田辺教育総務課長、矢沢学校教育課長
伊比教育総務課課長代理、茨城主査、清水主査
- (3) 傍聴者 2名
- (4) 報道 2名

4 都合により欠席した委員 4名 片山委員、小林(美)委員、富川委員、拝野委員

5 会議概要

- (1) 開会 阿部会長
- (2) 審議事項
 - ① 2件の統合について審議
- (3) その他
 - ① 次回審議会の日程について
 - ② その他
- (4) 閉会 徳永副会長

質疑・応答

発 言 者	発 言 概 要
-------	---------

【開会あいさつ】

会 長 : 先週の16日から今回の統合案対象校の学校訪問が始まった。6月末まで対象全5校の訪問が予定されている。また、かねてから申し上げていた統合案対象校区の個別の意見交換会についても、日程が決まりつつある。いずれも今後の審議に有効に活かせるような活動にしていきたい。

今日の審議だが、教育委員会の意見拝聴会が2月から3月に前倒しになったことから、当初の計画から少し変更になった。5月、6月に2件の統合案に関する審議を重ね、6月は当初の計画どおり後半でグループ討議に移りたいと考えている。それ以降は当初計画どおりに進めていく予定である。

前回の審議会の様子を見ると、今のところ意見が出にくい状況になっている。本日は、今後の方向性を探るためにも現段階の感想や一言でも構わないので、全員から発言をお願いしたい。

【審議事項】

会 長 : 先ほど申し上げたとおり、今回と6月の前半は2件の統合について、個別

に分けずに一括審議を行う。

最初は自由発言とし、意見のある方は挙手をお願いしたい。

会長：なければ、今回は全員から発言してもらいたい。恐縮だが、順番に発言をお願いしたい。今は統合の可否を判断する時期ではないので、現段階での考え方や感想でも構わない。

委員：前回の一次答申が土台となり、次は何を話し合えばよいのか悩んでいた。これから何を皆さんに伝えてよいのか迷う。

昨年、話し合った内容かもしれないが、複式学級が子ども達に与える影響について、大人数の方が子ども達の成長にはプラスになると私も思っている。その中で、学力を向上させる部分について、複式学級と大人数の違いを数値化できるのか。説明を求められたときに分かりやすく伝えたい。

委員：2件の統合案について、基本的に児童の人数や先のことを考えると、致し方ないと思っている。鯖石小学校と高柳小学校の時の考え方で審議したい。先行して、鯖石小学校と高柳小学校の統合準備委員会が始まっているが、地域や保護者、子ども達に対してより丁寧に進めていただきたい。

委員：剣野小や日吉小の統合について、地域の方から素直な意見が出ていないと思う。先日、鯨波小の説明会に参加したが、学校には地域や保護者から不満が届いていないとのことであるが、コミセンで開かれた地域説明会では、反対の意見もあった。今後、本当のところの話を聞いていきたい。

矢田地区で荒浜小の子ども達が畑仕事を体験したとの記事を見た。地域外の良いところをPRして、学区を超えた伝統の継承や地域資源の活用ができれば、学校がなくなったとしても柏崎市全体で継承していくことができるのではないかと思った。そのためには、地域の魅力を市全体で共有することができれば良いと思った。

改めて前回の資料を見て感じたが、私たちは高柳小の統合を決め、教育委員会も同様に舵を切った訳だが、それで終わりではなく、その後がどうなっているのか私たち自身も慎重に見ていかなければいけないと思う。

審議会や地域の説明会では、統合準備委員会は、まっさらな状態で決めると言っていた。吸収ではなく対等な統合であることを最初に教育委員会から受け入れる小学校の地域や保護者に説明してほしい。

委員：現時点では、統合は賛成の気持ちが強い。一次答申では、住民の強い反対があったが、その反対を押し切って統合賛成と判断した。逆に統合すべきではないとの事情が出てこないのであれば統合を進めるべきである。

今回の対象校に関しても児童数が減ってきていることから、統合を進めるうえで対等な関係をどこまで実現できるかは難しいと思う。統合までに人数が減ってしまうと統合の際の対等な関係が一層厳しくなると思うので、人数が増える見込みがないのであれば、早めに統合してお互いの学校の何かを残すという選択も一つの方法である。

委員：先日、鯨波小学校を訪問した。運動会の応援練習の様子を見たが、統合は必要と感じた。大勢の中でリーダーシップをとる経験などが必要であると感じた。

個人的には、学区再編方針に大洲小学校が統合対象になっていないことが疑問である。教育委員会は、今回の統合案に大洲小学校を含めることは考えていないとの回答であるが、長いスパンで見ると大洲小学校の統合を考える時期がくると感じる。一般企業であれば、5年、10年先を見据えて考える。行政であれば学校の改築など、多額の予算が必要になる。方針とは異なるが、その部分も考えて進める必要があると感じる。

委員：ある程度の人数の中で、学校生活を送ってほしいとの思いはある。中通小学校、鯨波小学校、米山小学校の今の人数を鑑みると、統合は賛成である。

大洲小学校が残った場合、学校間で児童数の開きができ、学校間のパワーバランスが崩れ、社会体育などで自分たちは勝てないと感じてしまう恐れがある。学校間で競えるような状況を作ることも必要である。

大洲小学校の統合がいつになるか分からず、児童数に開きがある中で統合を進めることは、いかがなものか決めかねている。

学校訪問や意見交換会などの日程調整について、事前に委員へ連絡をいただきたい。

委員： 鯨波小学校を見学し、授業は決して悪くないと感じた。学年でいえば各学年一桁であるが、すべての児童に先生が目が行き届いていた。

先生方との意見交換の際、「それぞれ役割を与えられ、責任を持つことは確かであるが、児童は自分から発信しなくても先生が見ていてくれると思っている。大きい学校に行ったとき、自分から発信できる児童は良いが、そうではない児童はつまづくことが心配である」とのことであった。積極的な子ども達ではあると思うが、別な部分では受け身なところもあると、そういう環境の中で学校生活を送っていると思った。

先日、統合準備委員会を傍聴した。個人的な感想だが、鯖石小学校の方々は、小学校は受け入れる側、中学校は受け入れられる側であったので、両方の気持ちを理解したうえで、高柳小との統合に向かっていていると思っていたが、協議の過程を見ると対等な話し合いではないと感じた。

この先、大きな学校との統合が見込まれるが、対等な統合であることを教育委員会から最初に伝えてほしい。

事務局： 準備委員会の検討内容は、決定事項以外は口外しないことで進めている。本日来場の傍聴及び報道の皆様には、配慮をお願いしたい。

一方的なご意見の様に思う。鯖石小校区の皆様も一生懸命考えてくださっていることをご理解いただきたい。

委員： 私が感じたことを申し上げただけである。申し訳なかった。

委員： 学区等再編方針によると、児童生徒数が減っていくので統合と書かれている。そのことによると、今回の2件は、統合することで良いと思う。ただし、そこに至るまでの経緯や保護者、地域の考えを十分にくみ取る必要がある。今後、学校訪問に出来る限り参加するなど、子ども達の様子を見学したり、地域や保護者の意見を聞き取りながら最終判断をしたい。

委員： 審議会に最初に参加したとき、対等な統合か吸収なのかを確認したが、事務局から対等であるとの回答があった。しかし、言葉に出さなくても、モヤモヤしながら吸収されていくと思う。対等な統合をするためには、期間が短いと言ったが教育委員会は出来ると言った訳なので、丁寧に進めて欲しい。

児童数の減少に伴い、複式学級の解消を第一に掲げると、これから複式学級はどんどん増えていく。鯨波小を例に挙げれば、全校児童数は30人前後で推移するが将来は減っていく。米山小は0人の学年もある。児童数がどこまで減り、複式学級がどのくらいになったら統合を進めるのかを考えなければいけない。市は、どこまで複式を解消するのか、複式をそのまま残して地域とともに個性ある学校を考えていかないと周りの小さな学校はなくなり、中央に集まってしまう。

もし、鯨波小を残して米山小だけを統合した場合、準備委員会を鯨波小が統合するときにもう1回、大洲小の児童が少なくなったときに更にもう1回やることになる。先を見越して統合を進める方法もあると考えている。

複式学級になったら統合との考えで進めると、準備委員会で統合される側の意見があまり反映されず地域間に溝ができる恐れがある。

誰も言葉に出さないが、複式学級は何でダメなのか。教育にはいろいろな面があるが、人数でいえば大勢いた方が良いかもしれないが、いろいろなやり方がある。市全体で考えていかないと地域の学校はなくなる柏崎市になってしまう。

児童数、複式学級を解消することにたっ言えば、統合を進めることで良いと思う。

委員： 先日、鯨波小を訪問した。昼休みの応援団の練習を見たとき、寂しいと感じ、統合をした方が良かったと思った。その後、校長等との意見交換の際、前任の学校は、統合しなければいけないほどの小規模であったが、大きい学校と

交流学習を活発に行い、良い成果が得られたとの話を聞いた。その学校は、今でも統合しないでのことであった。

教育委員会から諮問され、考えなければいけないことは、複式学級、トータル的人数は、当然見なければいけないが、本当にそれだけを見て統合を決めて良いのかは学校訪問の時に感じた。

先ほどA委員から統合準備委員会の話が出たときに、教育委員会から口外しないようにとの話が合ったが不信感しかない。本当にまっさらで準備委員会を進めていくのであれば、公開すれば良い。マスコミを入れ、傍聴も自由にさせれば良い。口止めをしなければいけない状況であれば、疑わしいと思うのが普通の人の考えである。

昨年、市P連を脱退したいとの申し出が6校から来ていた。理由は、コロナ明けで活動を活発にしたいので、市P連に会費を無駄に払いたくない、また、市P連がどのような活動をしているか分からないので、そのような組織に会費を払いたくないという内容であった。詳しく聞くと、その学校のPTA組織を保つことができないくらいの状態であるとのことであった。

そのような学校が統合の対象となったとき、そのPTAが統合のことを考えられるのか疑問がある。その方々が準備委員会に入り、自分自身の学校のPTAも維持できないのに、統合の内容をまともに考えられるのか疑問しか残らない。

我々は、諮問を受けているので答申をするが、そのようなところもメンテナンスをしなければいけない。逆に準備委員会は誰かが見てあげなければいけないと感じた。

委員： 先日、鯨波小に行き、子ども達や授業の様子を見学した。2件の統合については悩んでいる。昨年度の鯖石小学校と高柳小学校の統合については、審議する期間がない中で、保護者や地域の個人の本心がどうであったか改めて考えさせられている。

学校の統合は、期間が必要である。これから統合する学校は、地域や保護者の意見をよく聞き、何が一番良いのか審議を重ねなければ良い結果が出せない。

統合準備委員会を傍聴した。その年や構成するメンバーによって異なると思うが、過去の統合メンバーに入っていたこともあり、当時の雰囲気とは違っていると感じた。それぞれの想いはあると思うが、何となく対等ではなく、吸収っぽくなってきていると感じ残念に思った。統合する側は、切ない思いで不安を抱えて行くので、受け入れ側は様々な面を考えていただきたい。

委員： 柏崎市には、最上位の総合計画がある。そこでは、人口問題や財政問題が大きく取り上げられている。しかし、統合の話だけは、なぜか財政の話をしていない。子ども達の教育環境や、大勢いれば子どもが大人になるとか、いろいろな知識を得られるなどの説明で統合を進めようとしていることが、膿が出ていると感じる。

旧町村単位の統合は上手くいくが、コミュニティをまたいでというか、旧町村単位を超えての統合のため通学距離が遠くなる。コミセンには、それぞれのコミュニティの地域づくりがある。それぞれの地域独特の行事を行っている。地域の住民性もあることから、その部分が変わる不安を感じていると思っている。

通学時間が長くなることのハンデについて、保護者は迷っていると思う。

複式学級については、西中通地区や鯨波地区は、これから地域の人たちの実情を聞いてから判断したい。高柳小学校を見たときの感想は、複式学級の良さもあるが、統合は止むを得ないと感じていた。今後は、保護者の考えを聞きながら結論を出していきたい。

委員： 鯨波小学校を訪問した際の感想だが、とても良い雰囲気であった。温かなぬくもりがあり、また、落ち着いている感じもあり、校長や教頭の見識も高いと感じた。このような学校がなくなることは、惜しい、もったいないと思う。校長や教頭が地域からいなくなることは、地域にとっては残念なことである。

ある感じた。意見交換会の際「小さな学校のデメリットは、大人が努力してなくすものである」「小さな学校は、必ず役が回ってくる、活躍する場がある、小回りが利く」と話されていた。また、少人数の学校の傾向として「自分はこうなんだと決めつけてしまうところがある」とのことであった。

図工の授業を見学したが、児童によって絵を描く時間に差が出ていた。小さな学校の場合は、出来る児童と出来ない児童が二極化するが、大きな学校の場合は、同程度の仲間や、もう少し頑張れば、少し上の仲間近づけると感じるのではないかと感じた。小さい学校の場合は、教育の面では固定化されてしまう、得意、不得意がはっきりし、努力しなくなるように思った。

委員： それぞれの良さはあると思うが、ある程度の規模の中で学校生活や学習ができる環境を提供することは、基本的な流れであると思う。学校を統合するうえで様々な影響があるが、いかに引き継げるかが課題である。それぞれの良さを共有し、認め合いながら協議をしていくことが必要である。

引き続き、学校の見学や地域の皆様の声を聞き、方向性を見極めたい。

副会長： 委員の色々な話を聞いて良かったと思う。個人的には、自分の考えが整理できていない。地域の方がどのように考えているか、保護者がどのように感じているか気になっている。地域に出向いて話を聞き、考えを整理していきたい。

統合準備委員会について、口外しないでほしいとの発言があったが、統合準備委員会の中で、自分達の方針が整理されていない段階で、あたかも整理されたかの如く報道されてしまうことに対する疑問が事務局に投げかけられてしまうことがあったので、地元の気持ちを尊重しての発言であったと思う。

私たちは、公平中立、客観的に、子ども達にとって何が良いのか、どのような教育環境が大切なのかを、もう一度自分自身に問い掛けつつ、かつ、方向性を見出すのであれば、それに対する論理性というか、筋の通った考え方を自分の中で整理していきたい。

会長： 統合準備委員会について、いくつか話が出たが、審議会は意見を言う立場ではない。機会があれば傍聴し、見守っていきたい。その中で得られたものは、今後の統合の審議に活かしていきたい。

2件の統合についてだが、昨年度の審議を通じて一番問題意識を持っているのは、答申の最後に教育委員会への要望として書いたが、将来的には長期的な視点で、小・中学校の在り方を想定し、それに基づき一貫した再編を考えていくことが必要である。つまり、市内の小・中学校を最終的にどう再配置するのかというグランドデザインがあり、それに沿って短期、中期の統合計画を決めていくことが合理的である。もちろん長期的な計画を立てることは、時代変化を予測できないし、簡単なことではない。できればやっていると思う。

審議会としては、そこまで問う立場にはない。ただ、短期、中期の統合計画を考えていくうえでも、審議会としてはある程度長期的なことを頭に入れてながら判断していきたい。

2件の統合の是非については、今の段階では言及できない。ただ、米山小学校については、今後10人前後の児童数になる見込みであることや、前回の審議会、10年以上も前になるが、その段階でも統合の対象になっていること、一部の町内会から統合やむなしとの要望が出ていることなどから考えると、統合の方向に進んでいくと予想される。

いずれにしても地域の話聞くことに重点を置き、地元の意見を参考にしながら審議会としての結論を出していきたい。

事務局： 統合準備委員会が非公開としているのは、第1回の統合準備委員会に諮ったところ、審議の内容が詰まらない中で色々な情報が報道を介して流れることは避けたいとの思いから、委員の皆さんが非公開と決めたものである。この場で統合準備委員会の議論になるとは思わなかった。皆様に非公開となった経緯を説明しなかったことは事務局の落ち度である。

これからも傍聴は可能であるが、統合準備委員の皆様から承諾を得た情報以外は、公開しないでいただきたい。また、このような状況であることをご理解いただきたい。

統合準備委員会には、両地区の代表やP T Aの代表、両校の校長や教頭が参加している。どうか断片的なものや場面、特定の意見だけでなく、全体の意見を含めた中で発言をいただきたい。

- 会 長 : 感想を述べただけなので、過敏にならなくても良いと思う。
委 員 : 荒浜小学校の児童数について、令和10年が22人、令和11年が9人と激減しているが、理由が分かったらお聞きしたい。
事 務 局 : できる範囲で調べてお答えする。
委 員 : 若手が住みにくい街になっているのか。分かる範囲で良いので調べていただきたい。

【その他】

- 会 長 : 次回の審議会の日程について説明を求める。
事 務 局 : 次回は、6月22日（木曜日）午後6時30分から行う。
会 長 : 次回の前半は、引き続き2件の統合について審議を行う。後半は、グループ討議を行う。
個別の意見交換会について、事務局から説明を求める。
事 務 局 : (資料について説明)
後日、参加可能な日を事務局まで連絡願いたい。

以上、相違ないことを確認する。

令和5年（2023年）6月22日

会 長 阿 部 義 章

副会長 徳 永 優 子